災害時情報集約支援体制高度化のための訓練プログラムの開発

社会防災研究領域　総合防災情報センター／防災情報研究部門　筒井　和男

Point

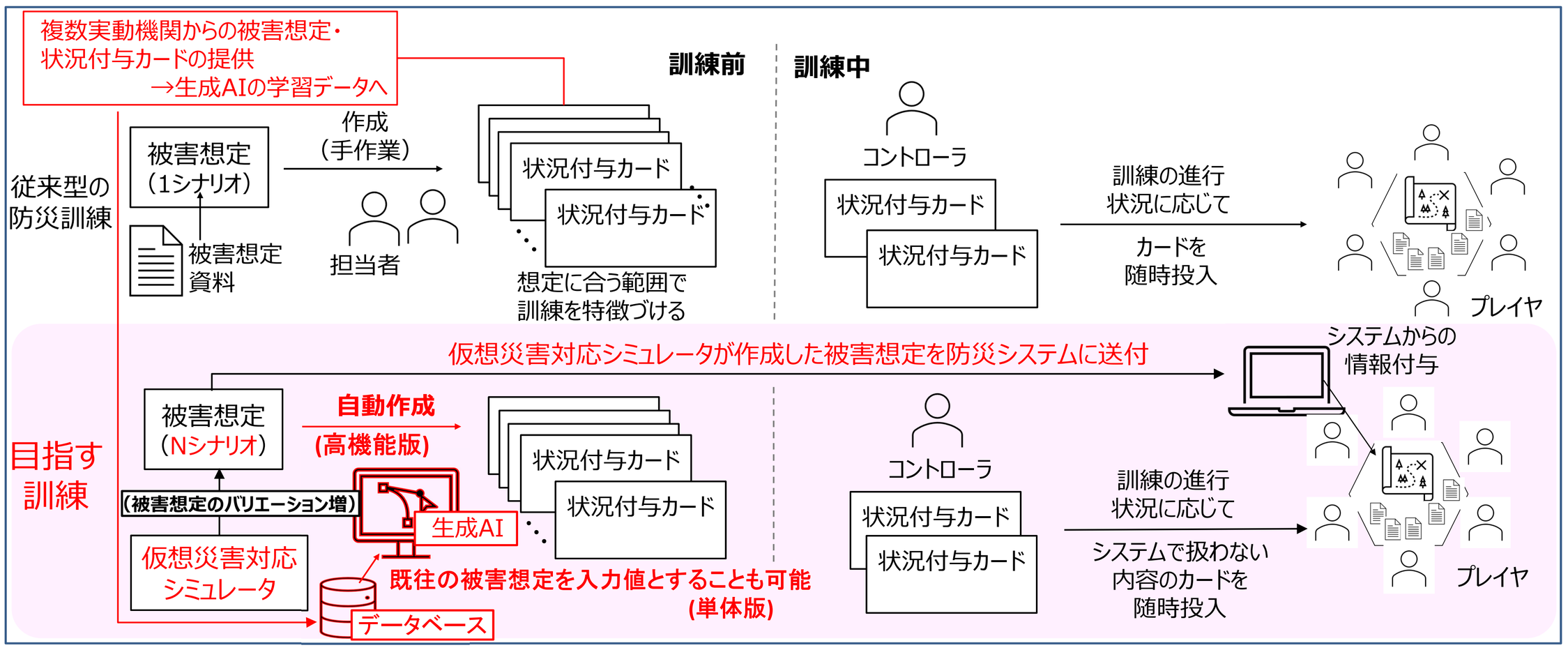
■ 実動機関が最前線で活用するシステムを使いこなすための訓練プログラムを開発
■ 仮想災害対応シミュレータによる時間的、空間的制約を排した訓練環境の提供
■ 生成AIによる防災図上訓練の状況付与カード作成システムも開発

概要

国難災害に備えるため、情報集約支援体制の高度化に取り組んでいます。実動機関（消防・警察・自衛隊等）および基礎自治体が中心となり被害状況を確実に発信し、手段、規模、装備等の適切な支援に継がるように、サブ課題Cで研究開発する機器やシステムを使いこなすための訓練プログラムを策定します。また、災害情報ツールを使いこなすスキルを備えた人材の育成、さらに、仮想災害対応シミュレータによる時間的、空間的な制約を排した訓練環境を提供し、情報集約支援体制の高度化を目指します。

仮想災害対応シミュレータは、被害状況と実動機関の活動状況をシミュレートし、仮想空間で災害対応訓練を実施する技術を開発します。例えば、従来の防災図上訓練では、被害想定となるシナリオを１つだけ作成しますが、多様な訓練により訓練のマンネリ化を避け、災害対応力の向上に資するものです。芝浦工業大学の市川研究室が中心に開発に取り組んでいます。

また、防災図上訓練では、訓練に取り組む者（プレイヤ）に進行状況やシナリオに応じた災害の状況を与えます（状況付与カード）。状況付与カードを生成AIで作成するシステムの開発を目指しています。構造計画研究所が中心に取り組んでいます。



今後の展望・方向性

今後は、開発する訓練プログラムやシステムの有効性の検証を進めます。実動機関や基礎自治体が実施する防災訓練に参加し、実証訓練を繰り返しながら、実動機関等の要望を把握し、アジャイルなシステム開発を進めます。

南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域指定市町村を対象に、実動機関等の職員を対象に訓練の実施、また、生成AIによる状況付与カード作成システムにより準備に係る負担の軽減を実証していきます。

生きる、を支える科学技術
防災科研 NIED
国立研究開発法人　防災科学技術研究所
〒305-0006　茨城県つくば市天王台3-1　Tel 029-851-1611　Fax 029-851-1622
https://www.bosai.go.jp